

地方創生交付金を活用した事業の報告及び評価（令和2年度まで実施事業）

No	①	②	③	④				⑤								⑥		⑦			
	交付対象事業の名称	事業概要	総事業費 (千円)	本事業における重要業績評価指標（KPI）				令和2年度終了時の実績値								実績を踏まえた事業の今後について		外部有識者からの評価・意見 (事業の方向性、KPI等)			
				指標		指標値	単位	目標年月	種別	開始前	H28年度 (1年目)	H29年度 (2年目)	H30年度 (3年目)	R1年度 (4年目)	R2年度 (5年目)	事業効果	事業効果の理由	今後の方向性	今後の方向性の理由	事業評価	意見
1	越前加賀インパウンド受け入れ体制等整備事業 【ソフト事業】 【5年間】 地方創生推進交付金	あわら市、勝山市、坂井市、永平寺町、加賀市の4市1町の観光資源を結びつけ、魅力の向上を図りながら、広域的旅行ルートを造成し、首都圏のみならず、東アジアや東南アジアなど海外に対して滞在型観光誘客を推進することを目的とする。	13,470 (R2)	指標①	外国人宿泊客数 (あわら市・勝山市・坂井市・永平寺町・加賀市)	240,000	人	R3.3	指標値	-	90,000	120,000	160,000	200,000	240,000	地方創生に効果があった	新型コロナウイルスの影響により外国人の観光客が見込めなかったため、誘客等の事業を一部中止したが、観光ガイド及びコンシェルジュ育成研修会等は開催し、域内で実施可能な範囲で受け入れ体制の整備を推進した。	事業の改善	誘客に向けた取り組みは継続することで、海外旅行会社等との良好な関係を構築でき、高い効果が期待できる。そのため、継続して事業を行っていくことが大切である。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、従来通りのインパウンド推進は困難な状況となっている。現在の情勢に合った事業の実施をしつつ、インパウンド需要が回復した時に向けて準備する必要がある。	地方創生に効果があった	新型コロナの影響で人の流れが制限される中、外国人宿泊客数および観光客入込客数ともに目標値に達成することはできていなかった。しかしながら、アフターコロナに備えたコンシェルジュの育成等を実施することで、受け入れ態勢の強化を図ることは評価でき、今後も継続していくべきである。
									実績値	60,000	74,895	96,832	107,308	103,008	14,463						
				指標②	観光客入込客数 (あわら市・勝山市・坂井市・永平寺町・加賀市)	12,550	千人	R3.3	指標値	-	10,720	11,070	11,470	11,970	12,550						
									実績値	10,420	12,690	12,280	11,725	12,270	6,826						

凡例：地方創生に非常に効果的であった 例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
地方創生に効果があった 例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
地方創生に効果がなかった 例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

地方創生交付金を活用した事業の報告及び評価（令和２年度まで実施事業）

No	① 交付対象事業の 名称	② 事業概要	③ 総事業費 （千円）	④ 本事業における重要業績評価指標（KPI）					⑤ 令和2年度終了時の実績値							⑥ 実績を踏まえた事業の今後について		⑦ 外部有識者からの評価・意見 （事業の方向性、KPI等）		
				指標		指標値	単位	目標年月	種別	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	事業効果	事業効果の理由	今後の方向性	今後の方向性の理由	事業評価	意見
1	アーバンデザインセンター坂井整備計画 地方創生拠点整備交付金	公・民・学の連携による「空き家の利活用を通したまちづくり」の調整機関を整備することで、三国湊地区の歴史的町並みを残しながら、空き家の利活用による移住定住者及び交流人口の増加を図る。	49,990 (H29)	指標①	事業収入	950	万円	R3.3	指標値	-	200	500	950		地方創生に効果があった	R2年度は新型コロナウイルスによる影響が見られたが、その中でも出来ることを考え、地域の魅力向上のために事業を実施してきた。三国の伝統文化や生活文化を体験する「和楽の日」や、三国高校との共催による「棒人間アート展」を開催した。 空家活用についても、地域での事業を希望する個人や事業者と空家のマッチングを推進してきた。そこから、空家が賑わい創出の期待できる店舗等へと活用され、地域に活気をもたらしている。	事業の継続	一定の事業効果が認められることから、事業を継続していく。令和2年度においても、空家が賑わい創出の期待できる店舗等へと活用され、地域に活気をもたらしている。今後も引き続き、空家活用とともに、公民学連携のまちづくりを目指していく。 また、三国高校が文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に採択されたことを受け、R2年度に三国高校と連携協定を締結し、さらなる連携の強化を図った。今後も引き続き、空家教育プロジェクトを通して、次世代のまちづくりの担い手育成に取り組んでいく。	地方創生に相当程度効果があった	新型コロナウイルスの影響があるものの、空家活用数が大きく伸びているだけでなく、三国高校との連携協定による各事業の実施など次世代につながる活動が図られており、公民学連携にも大いに寄与している。今後も継続による発展に期待したい。
									実績値	-	134	380	545							
				指標②	空家活用数	累計10	件	R3.3	指標値	-	2	3	5 (累計10)							
									実績値	-	2	1	14 (累計17)							
				指標③	空き家活用による移住者数	累計20	人	R3.3	指標値	-	4	6	10 (累計20)							
									実績値	-	3	1	7 (累計11)							
2	坂井「わがごと・まるごと」地域の元気創出拠点整備事業 三国希望園 地方創生拠点整備交付金	旧三国西幼稚園を改修し、「再び」地域の活動拠点として解放することで、高齢者や子ども、子育て世代などの多世代の交流と障がいや介護、貧困、ひとり親など様々な困難を抱える住民の交流拠点として活用する。	123,357 (H29)	指標①	三国地区の元気シニアの人数	5,384	人	R4.3	指標値	5,224	5,249	5,284	5,329	5,384	地方創生に効果があった	障害者週間のイベントを森田銀行（三国地区）で開催した際には、希望園を利用している障がい者の方たちが受付業務を担い、障がいに対する市民の理解促進や、地域交流などの効果が得られた。 年間を通しては、コロナ禍で活動が制限されたものの、今まで構築してきた地域との関係を保ちつつ、活動を継続することができた。	事業の継続	コロナ禍における活動方法を模索しつつ、今後も、地域住民が気軽に立ち寄り相談できるような企画等を工夫しながら継続し、住民の交流による高齢者の健康維持や、障がい者の就労意欲の向上に努めていくことが必要である。	地方創生に効果があった	地域の人イベントなどに手伝いに行くなど地域との密接な関わりは評価できるが、イベントの減少とともに地域交流が少なくなってきた。今までの地域密着の素地を途切らすことなく、工夫ある活動を期待したい。
									実績値	5,446	5,507	5,436	5,612							
				指標②	三国地区の一般就労した障がい者の人数	累計28	人	R4.3	指標値	6	10	15	21	28						
									実績値	3	(累計8)	(累計15)	6 (累計21)							
				指標③	三国希望園の自主商品販売額	3,016	千円	R4.3	指標値	1,316	1,616	2,016	2,516	3,116						
									実績値	846	1,149	1,038	1,140							
3	丸岡バスターミナル周辺整備事業 地方創生拠点整備交付金	丸岡バスターミナルについて、交流スペース及び賑わい広場を整備することにより人が滞留できる拠点をつくるとともに交流スペース内の店舗誘致、賑わい広場での産直販売などを実施することでまちの活性化を図る。 またこの施設を丸岡城までのまち歩きの拠点とすることで、丸岡城への導線周辺にある空き家・空き店舗の利活用を促し、観光客に対する魅力向上及び賑わい創出を図る。	262,856 (R1)	指標①	交流施設来館者数	67,800	人	R6.3	指標値	-	-	-	51,000	56,100	地方創生に効果があった	今年度は、イベント時の来場者やテナント施設利用者数だけで、指標値を上回り賑わいづくりや交流拠点としての役割は十分に果たしていると考え。施設利用イベントは、地元農家による野菜の販売コーナーなど、地域を巻き込んだ内容となっている。賑わい広場出展料については、直営でイベントも市主催のためすべて減免とした。	事業の継続	イベントについては、コロナ禍の状況も見据えながら、徐々に回数を増やし指標値を目指す。また、企画する中で、指定管理者による地元の農家や商店、企業に積極的に声を掛けることで、地域の交流と活性化を図る。通常の開設日についても、施設内展示スペースの有効活用や、テナント業者による季節に応じたメニューの提供など、人が集う仕掛けを行いながら、今以上の来館者増を図り施設の周知を行うことで、公共交通拠点としての利用者増も目指す。	地方創生に相当程度効果があった	着実にイベントを開催することができており、朝市やカニ汁ふるまい、地元高校生の吹奏楽など幅広い内容で賑わいの場としての活用がなされている。またイベント外でも高校生や高齢者の方が団体で勉強や交流の場として利用されており、賑わいの創出になっている。
									実績値	-	-	-	54,220							
				指標②	賑わい広場イベント開催数	40	回	R6.3	指標値	-	-	-	12	18						
									実績値	-	-	-	5							
				指標③	賑わい広場出店料	194	万円	R6.3	指標値	-	-	-	24	60						
									実績値	-	-	-	0							
4	農産物の情報発信ターミナル「いねす」整備事業 地方創生拠点整備交付金	坂井地域交流センター「いねす」を改修することで、市全域の農業生産物を扱う商業活動の場を整えるとともに、ホール等を活用した市民の交流を促進し、周辺エリアの商業的価値を向上させることを目的とする。	366,957 (R1)	指標①	年間売上額（農産物直売所、施設利用料等）	157,646	千円	R6.3	指標値	-	-	-	137,396	144,146	地方創生に効果があった	農産物直売所の年間売上額については、リニューアルを契機に陳列方法の変更等を行い売上額は伸びた。 施設利用者、イベント開催数の減少については、新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一環で、貸館業務の停止、イベントを開催中止とした。	事業の継続	農産物直売所の年間売上額については、今後も創意工夫を凝らし売上額を伸ばしていきたい。 施設利用者数、イベント開催数については新型コロナウイルスの影響で貸館の停止やイベントの中止を行っており、施設本来の事業の形になっていないため。（令和3年度もコロナ接種会場として貸し出している。）	地方創生に効果があった	売上については目標値を上回っており一定の効果は得られているが、利用者数が伸び悩んでいる。コロナ対策を考慮した体験教室の実施など、賑わいづくりに向けたイベントの実施の工夫を検討されたい。
									実績値	-	130,646	-	165,185							
				指標②	施設利用者数（農産物直売所、交流ホール等）	170,035	人	R6.3	指標値	-	-	-	154,285	159,535						
									実績値	-	149,035	-	139,094							
				指標③	イベント開催数（自主事業、市又はまちづくり協議会主催等）	6	回	R6.3	指標値	-	-	-	2	4						
									実績値	-	2	-	1							

凡例：地方創生に非常に効果的であった 例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
地方創生に効果があった 例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
地方創生に相当程度効果があった 例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
地方創生に効果がなかった 例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合